



# 藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和6年6月3日 校長 竹田 聡

向暑の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

5月10日(金)の「ふれ合い除草」には、たくさんの方にご協力いただきありがとうございました。お陰様で整った環境で体育祭を行うことができました。また、5月18日(土)の体育祭では、ご家族の応援が子どもたちの大きな力になりました。体育祭閉会式後のテント片付けも大変助かりました。感謝申し上げます。

6月は運動部の3年生最後の大会「学校総合体育大会」があり、鶴ヶ島市では大会2週間前から朝練習、土日両日の練習ができます。大会がよいコンディションで迎えられるように、健康管理を中心に、ご家庭のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

## 〈5月18日 体育祭 「校長の話」〉

開会式で、私は次の話をしました。

体育祭の開催にあたり、3つのことを話します。

1つ目は「感謝」です。ご来賓、ご家族に見守られ、体育祭が開催できることへの「感謝」、体育祭予行では強風、昨年度の体育祭は小雨の中での開会式でした。今日は天候にも恵まれて体育祭ができることへの「感謝」、そして、5色対抗の体育祭ができることに「感謝」の気持ちをもって、取り組みましょう。

2つ目は「全力」です。やる以上は勝つことを目指して、本気で取り組んでください。勝つ相手は、まず自分、自分たちです。練習以上の記録が体育祭本番で出せることが大切です。自己ベスト、チームベストを出せた結果、相手にも勝てたら更によいですね。

3つ目は「全種目全員参加」です。体育祭では、選手、係、応援のどれかを必ず行うことになります。特に、応援は選手の力になります。1日の長丁場でも応援が途切れることがないように、頑張ってください。

「感謝」「全力」「全員参加」を胸に熱い戦いを期待します。

体育祭は、終日好天となり、予定通りに行うことができました。生徒は、自分の競技、係はもちろんのこと、応援席からの声援が途切れることがなく、最後まで団の旗も振り続けられました。藤中らしきにあふれた、素晴らしく感動的な体育祭でした。

閉会式では、私は次の話をしました。

総合優勝の青団の皆さん、おめでとうございます。心よりお祝いの言葉を贈ります。残念ながら優勝に届かなかった団の皆さん、やはり悔しいですね。その「悔しさ」は皆さんが本気で取り組んだ証拠で、みなさんの伸びしろです。

勝負事の行事が終わると、私は「勝っておごらず、負けてくさらず」と話しています。「負けてくさらず」とは、負けた原因を考え、自分の成長に役立てることで、「悔しさ」を人に向けることは絶対にはいけません。「悔しさ」を人に向けた瞬間、それは「憎しみ」に変わってしまいます。「勝っておごらず」とは、「謙虚な勝者」であることです。勝った「嬉しさ」を人向けると、「恨み」を買うこととなります。体育祭の目的は、体育祭を通して藤中がよりよくなることです。今は5つの団に分かれていても、体育祭後は仲のよい仲間に戻ってください。約束ですよ。

ここで、サッカーやラグビーのように「ノーサイド」を宣言します。今を境に、敵味方なく藤中の仲間として、成長することを期待しています。

最後までご覧いただきました、ご家族、卒業生の皆さん、ありがとうございました。卒業生の皆さん、藤中の体育祭は最高ですよ。これからは藤中の応援をよろしくお願い致します。

「悔しさ」「嬉しさ」は、心の成長に役立つ面もあれば、人を傷つけてしまう面もあります。そのことに気付き、学ぶことが大切です。体育祭を通して、本当に仲間を大切にできる人に成長することを願っています。

